

いこっさNICCAを開催

7月、福井本社で第6回「いこっさNICCA」を開催しました。これは近隣住民の方に当社を身近に感じていただくこと、安全や災害に対する備えを説明し、理解していただくことを目的としたものです。今年は、本社敷地内でイノベーションセンター（仮称）の着工などを控えており、模型（完成イメージ）を展示して説明を行いました。当社では2年に1回、300名を超える方々とのコミュニケーションの場としてこの催しを行っています。



鯖江工場で消防署と合同の消防訓練を実施

6月、福井県鯖江市にある丹生消防署と当社鯖江工場の合同による消防訓練を実施しました。約60名が参加し、危険物を扱う施設での火災を想定し、はしご車を使用した救助訓練などを行いました。当社では、防災訓練など全員参加による積極的な安全衛生活動を推進しています。



「化学物質リスクアセスメント(CRA)」キックオフ

2月、化学物質リスクアセスメントキックオフ宣言をしました。化学物質を扱う職場における、災害、健康被害に至るおそれのあるリスクを事前に取り除くということが目的です。当社では、全社員参加型のリスクアセスメントを推進していきます。

会社概要 (2015年6月30日現在)

商号 日華化学株式会社
 本社所在地 福井県福井市文京4丁目23-1
 創立 1941年9月15日
 資本金 2,898,545,000円
 従業員数 1,359名(連結) 568名(個別)

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
 定時株主総会 毎年3月下旬
 基準日 定時株主総会・期末配当 毎年12月31日 / 中間配当 毎年6月30日
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について
 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払について
 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

- 本社・総合研究所・デミ毛髪科学研究所・化粧品製造所 / 〒910-8670 福井市文京4丁目23-1 TEL (0776) 24-0213 (代)
- 支店 / 大阪・東京・名古屋・北陸 ●営業所 / 福岡・仙台 ●工場 / 福井 (DEMI)・鯖江・関東・鹿島
- 鯖江物流センター ●デミヘアサイエンススクエア東京・大阪・名古屋
- [国内関係会社] 山田製薬株式会社 コスメラボ株式会社 イーラル株式会社 大智化学産業株式会社
 江守エンジニアリング株式会社 株式会社ニッコー化学研究所 ソルベイ日華株式会社
- [海外関係会社] 日華化学研発(上海)有限公司 DEMI (BEIJING) INTERNATIONAL TRADING CO., LTD. 香港日華化学有限公司
 DEMI KOREA CO., LTD. ニッカ KOREA CO., LTD. ニッカ U.S.A., INC. PT.インドネシアニッカケミカルズ
 ニッカ VIETNAM CO., LTD. 浙江日華化学有限公司 台湾日華化学工業股份有限公司 STC ニッカ CO., LTD.
 広州日華化学有限公司 徳亜樹脂股份有限公司
- 発行 / 日華化学株式会社 ●発行月 / 2015年9月 通算29号 ●制作 / 株式会社橋本確文堂

日華化学の“いま”をダイレクトに伝える

GLOBE

グローブ

第102期第2四半期 営業のご報告 2015年1月1日～2015年6月30日



もうひとつの日華化学の創造へ、新規育成事業部門が挑む。

- 財務の状況
- 事業部の「いま」 新規育成事業部門
- マルチナショナルカンパニーへの道 番外編 大智化学産業株式会社
- TOPICS
- NICCAの「イノベーション・スイッチ」 複合材料のプロジェクト始動

表紙解説

- 1 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

もうひとつの日華化学の創造へ、新規育成事業部門が挑む。

- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

- ① ① ② ③ ④ ⑤ ⑥
- ② 7月にIRエキスポ2015に出展
- ③ ウェブジョーカー新ラインナップ
- ④ アゲハプロジェクトのメンバー
- ⑤ 大智化学産業の写真
- ⑥ 大智化学産業千葉武山工場



代表取締役社長 江守康昌

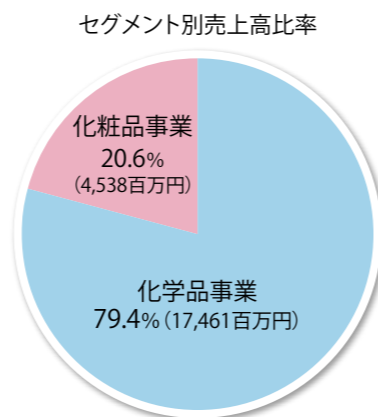
株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
 2015年度第2四半期決算概況についてご報告いたします。
 当第2四半期におけるわが国の経済は円安・株高が継続し、企業業績が好調に推移していることに加え、個人消費の持ち直しの動きがみられるなど緩やかな回復基調で推移しておりますが、円安進行に伴う物価の上昇や、新興国経済の減速懸念、欧州債務問題の再燃等、先行き不透明な状況が続いております。
 このような状況のもと、化学品事業では、主力事業の繊維事業における海外市場シェア拡大を図りました。また、大智化学産業株式会社を子会社化するなど、新規事業の取り組みを推進した上半期となりました。化粧品事業では、主要ブランドのデミ コスメティクスや第2ブランドのイーラルが好調を維持し、連結売上は対前年同期比12.6%増となっています。一方、将来を見据えた経営基盤の強化や成長のための技術獲得を行ったことにより、連結営業利益は12.2%減となりました。

当社グループでは、“Efficiency”（効率性）“Innovation”（技術革新）“Sustainability”（持続性）というグループポリシーを軸とした経営を行っており、今後も持続的に成長を遂げる永続企業を目指してまいります。
 株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご指導を賜り、末永くお付き合いいただきますようお願い申し上げます。

当第2四半期決算概況

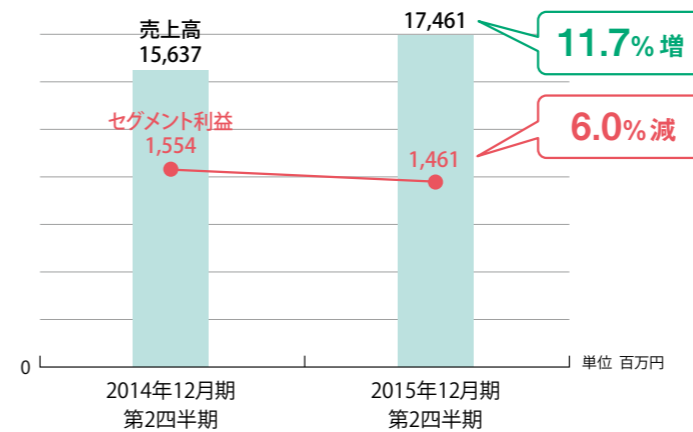
連結売上高	21,999百万円	12.6%増	
連結営業利益	1,489百万円	12.2%減	
連結経常利益	1,632百万円	3.3%減	



化学品事業 〈連結売上高・セグメント利益推移〉

台湾・韓国で撥水剤の販売が好調

海外では、台湾および韓国において撥水剤の販売が好調に推移し売上が伸びました。国内では、消費支出の低下や加工量の減少、一部自動車メーカーのリコール問題などにより、インテリア関連薬剤などの繊維用加工薬剤が低迷しました。また、新規事業育成の人員増強、将来に向けた基盤技術のノウハウ獲得などの先行投資も行った結果、売上高は増加し174億6千1百万円、セグメント利益は14億6千1百万円の増収減益となりました。

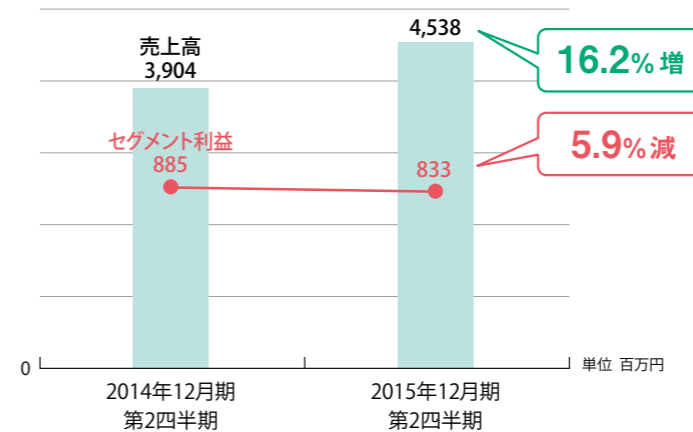


- ⊕ 台湾・韓国で撥水剤が好調
- ⊕ 円安の影響
- ⊖ 国内で繊維用加工薬剤が低迷
- ⊖ 将来に向けた先行投資

化粧品事業 〈連結売上高・セグメント利益推移〉

デミ、イーラルの売上が好調

デミ コスメティクスやイーラルが堅調に推移したことに加え、山田製薬「アンサージュ」が好調、化粧品製造受託やDEMI KOREA CO., LTD.等の多角化・多国籍化戦略が奏功するも、事業拡大のための人員増加を行った結果、売上高は増加し45億3千8百万円、セグメント利益は8億3千3百万円の増収減益となりました。



- ⊕ デミ、イーラルの売上が好調
- ⊕ DEMI KOREA等の多角化・多国籍化戦略が奏功
- ⊖ 事業拡大のための人員増加
- ⊖ 一時的な外注加工費の増加

2012年にスタートした新規育成事業部門

“もうひとつの日華化学”創造に向けて、新たな動きが次々と誕生。

2012年に新設された新規育成事業部門は、経営の大きな柱である化学品事業・化粧品事業に続く第三の柱として、「もうひとつの日華化学を創造する」という目標を掲げて船出しました。

日華化学は、2016年の連結売上高500億円、営業利益40億円の実現を目指し、日々着実な歩みを続けています。新規育成事業部門は、2017年以降、その先に向けた事業を創造するために設立された部門です。

設立から3年の時が経過した今、同部門では様々な「可能性の芽」が生まれつつあります。そんな新規育成事業部門の「いま」を、代表取締役社長の江守康昌と新規育成事業部門副部門長の籠谷正がご紹介します。



代表取締役社長
江守康昌 (えもり やすまさ)

“Efficiency” “Innovation” “Sustainability” の実現のために

—まず江守社長に伺います。
日華化学にとっての新規事業とは？

江守：当社にはEfficiency（効率性）、Innovation（技術革新）、Sustainability（永続性）というグループポリシーがあります。

徹底的に「Efficiency（効率性）」を追求して、強い企業体質づくりを目指すとともに、当社の技術革新を喚起し、「イノベーション」を起すため様々な施策を進めています。また、イノベーションという研究開発を連想しがちですが、私はモノの見方や考え、働き方、そして生き方自体を変えていくことだと考えています。全ての社員、部門でイノベーションを起こしていくことが重要です。

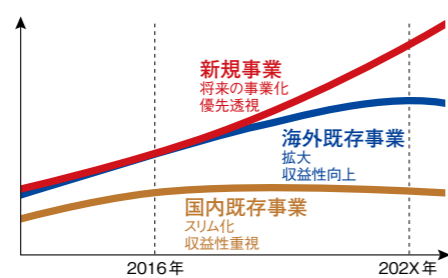
このような“変化すべきこと”と同時に、大家族主義を貫くなど、絶対に変えない“不変の独自性”を追求し永続企業を目指すことが経営の軸となっています。

その中で新規事業の創造は、日華化学グループの持続的な成長を考えた時、重要

な経営テーマとなっています。

—新規育成事業部門の役割とは？

江守：新規育成事業部門のミッションは、繊維用薬剤事業を中心とした「化学品」、デミコスメティクスなどの「化粧品」に続く、第三の柱を新たに構築することです。当社はここ数年、事業の「選択と集中」など様々な改革を行ってきました。化学品および化粧品事業の収益性向上や海外事業の拡大を推進し、「2016ビジョン（売上高500億円 営業利益40億円）」の達成が見える位置にきました。これら当社の主力事業においては繊維事業の海外大手アパレルメーカーへのアプローチや、クリーニング事業のメディカル分野への展開など、新しい分野・地域への展開を図っています。一方で新規育成事業は、2017年以降、10年、20年先を見据えて、「もうひとつの日華化学」と成りえる事業を創造するための重要な組織として位置づけています。現在、研究職44名／営業・マーケティング等30名から成る合計74名（6月末現在）で、新しい事業開発に打ち込んでいます。



—“もうひとつの日華化学を創造する”が新規育成事業部門のテーマなのですね。

江守：当社では事業を展望する時、未来のあるべき姿を構想し、それを実現するために今何を成すべきかを導き出します。

例えば2030年（15年後）の私たちの姿を想像してみます。その未来において繊維加工薬剤は海外市場への展開により、世界

シェアの10%を占め、同業界において世界No.1となっているでしょう。同時にファインケミカルやメディカル、新素材やエレクトロニクス関連の事業も大きく花開き、それらは繊維関連事業と肩を並べるまでに成長しているはず。それらの事業は、日華化学がこれまで培ってきた技術＝界面科学を基盤としつつも、異分野の技術と融合イノベーションを起こし、新たな基盤技術となっているでしょう。さらに取引先や市場も、これまでの繊維産業を中心としたものからエレクトロニクス産業や素材産業など多岐に及ぶものとなっています。

今日「繊維に強い日華化学」と言われていますが、将来においては「日華化学は繊維“も”強いのです」と評されるような企業となっているはず。今日「繊維に強い日華化学」と言われていますが、将来においては「日華化学は繊維“も”強いのです」と評されるような企業となっているはずです。

このように事業規模も技術領域も、取引先や市場も、それまでの日華化学とは違う「もうひとつの日華化学」を創出したい。そのコアを担うのが、新規育成事業部門なのです。

—「新規事業」の手ごたえは？

江守：実質2年数カ月にはわたる集中的な活動によって数々のプロジェクトが立ち上がっています。またM&A、技術ライセンスの取得など、外部との連携を推進することで新規分野の早期事業化に向けた施策も進めています。今後、大きな成果となって実を結んでくれるものと確信しています。

また、2017年にはイノベーションセンター（仮称）の完成を予定しています。同センターは社内外・国内外・産官学など、さまざまな分野の人が集まり、情報交換しながら新しいアイデアが生まれる、“イノベーションが巻き起こる場”となることでしょう。

これら将来へ向けての取り組みにより、会社と社員が成長し続け、永続的にお客様やビジネスパートナーの皆様へ「すごいね!」という感動を与えられるような会社を目指してまいります。

異業種へ、世界的プロジェクトへ

—続いて、籠谷副部門長に伺います。
新規育成事業部門の現状は？

籠谷：新規育成事業部門ではスタッフから出された膨大な数のアイデアを、フェーズ0（ゼロ）から事業化段階のフェーズ5までに至る6つの段階に沿って検討し、研究開発を行ってきました。純然たるアイデア段階である「フェーズ0」にエントリーされたプロジェクトは約600件。その後、技術調査や市場可能性の検討、研究開発と試作、テストマーケティングを経て「フェーズ5」へと至るのです。あと数カ月後には、顧客に供給開始される製品もあります。また日々新たなアイデアが供給され、ステップアップを控えています。現段階では公表できないことも多いのですが、いくつかの例として、①M&Aで傘下に入れた大智化学産業の技術とノウハウ、②旭化成イーマテリアルズからの技術ライセンス取得、③炭素繊維等の「新領域に向けた研究」についてご紹介したいと思います。

—まず「大智化学産業との事業連携」について説明してください。

籠谷：大智化学産業はエレクトロニクス業界で使用されるクーラント剤（切削液）で圧倒的なシェアを持つ企業です（詳細は6

ページをご覧ください）。同社とのM&Aで私たちが期待しているのは次の3点です。

ひとつは今後私たちがエレクトロニクス業界にアプローチする際の大きな足掛かりとなるだろうということ。まず当然、大智化学産業の既存クライアントとのパイプができます。さらに業界にはそれぞれ独自の「流儀」や必須の「技術」があって、それを習得しなければその業界にエントリーすることはできません。当社は繊維業界に対しては分厚いノウハウを積み重ねてきましたが、エレクトロニクス業界については不足している部分が多くあります。例えばエレクトロニクス業界でスタンダードとなっている「トレンド管理」と呼ばれる品質工学は、日華化学にとって未知の技術でした。大智化学産業からこのノウハウを取得することでエレクトロニクス産業へのアプローチは俄然、現実味を帯びてきます。

もうひとつは日華化学の「界面技術」とのシナジーによる新製品開発。溶液中に様々な物質を分散し混合させる日華化学の技術によって、新たな切削研磨剤の製品化も考えられるでしょう。

そして三つ目が日華化学の海外拠点の中でもエレクトロニクス業界に強い台湾・韓国・欧米などの拠点との販売面での連携です。

これらの方策によって20～30億円規模のニッチ市場、そのトップの座を手にすることができそうです。こうした規模の事業を多角的に展開していくことで、将来の「もうひとつ



新規育成事業部門 副部門長
大智化学産業株式会社 代表取締役社長
籠谷 正 (かごたに ただし)

の「日華化学」に向けて着実に歩んでいきたいと考えています。

—次いで「旭化成イーマテリアルズの技術取得」と「新領域の研究」についてお願いします。

籠谷：旭化成イーマテリアルズから取得したのは、「自在かつ精密に特定の高分子を合成することができる技術」です。この技術で作った薬剤を、例えば電子部品の製造プロセスで使うことで従来以上の微細加工ができるようになり、LSI（集積回路）などの性能向上に大きく貢献します。界面科学との親和性も高く、当社にとって新たなニッチ市場を開拓していける戦略技術になるものと期待しています。

「新領域の研究」は、例えば炭素繊維のリサイクルや工程短縮に寄与する薬剤の開発です。この実用化に向けて現在、最も多くの炭素繊維市場を持つ欧米とのオープン・イノベーションを推進しています。具体的には炭素繊維の複合材料で先端の技術が集まるドイツの研究クラスター「CFKバレー」（詳しくは8ページを参照ください）への加入や、アーヘン工科大学との共同研究などを行っています。これらは当社の界面科学の可能性を、航空機や人工衛星、自動車産業といった分野へと拓いていくという試みでもあります。

まだ他にも数々の可能性が、同時並行的に花開きつつあります。ご期待ください。



大智化学産業外観（詳細は6ページ参照）



新規育成事業部門 特殊化学品本部長
島田 昌和

10億円のマーケットを50つ作る—— ニッチ戦略で飛躍を期す。

2012年に発足した新規育成事業部門は、「界面制御」をコンセプトに「2030年の日華化学」を視野に入れた事業育成に取り組んできました。発足から3年が経過した今、市場デビューを待つ様々な「芽」が開花の時を待っています。同事業部門で、短中期スパンでの事業化を担っている特殊化学品本部長・島田昌和が、事業開発の「いま」と「これから」を語ります。

「界面制御」という固有技術

新規育成事業部門の発足後、私たちは日華化学が蓄積してきた技術の総点検を行い、その結果「界面制御」という固有技術の存在を確認しました。界面とは「個体・液体・気体」それぞれが接する境界のこと。これらの界面をコントロールすることで、「乳化」、「分散」、「起泡・消泡」、「湿潤」、「密着」、「撥水・撥油」などの状態をつくり出すことができます。日華化学のコア・コンピタンスはこれら「界面制御」にあり、世の中にある「ありとあらゆる界面が我々の事業対象領域である」との認識を得るに至りました。そしてこれからの社会の姿を思い描きながら、どういった分野で我々が保有する界面科学を生かすことができるかを検討し、その結果、新たな基盤技術として「5つの新技術プラットフォーム」を設定し、それぞれの事業化に取り組んでいくこととなったのです。

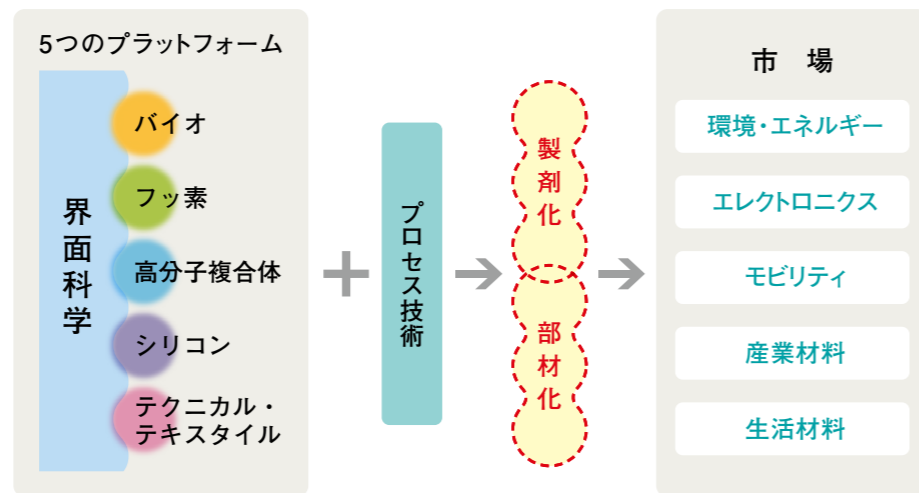


日華化学の界面制御技術を生かし、新技術開発に挑んでいる

5つの新技術 プラットフォームで展開

私たちが設定した基盤技術のプラットフォームは、①環境配慮型製品をつくるための「バイオ」、②撥水撥油、潤滑機能などへの展開が考えられる「フッ素」、③高分子合成制御技術の新展開を目指す「高分子複

■新技術プラットフォームと想定市場



合体」、そして④シリコン、⑤テクニカル・テキスタイルの5つです。

これらのプラットフォームに、大智化学産業(6ページ参照)やライセンス取得した旭化成イーマテリアルズの技術(4ページ参照)、さらには産官学共同で研究を進めている技術などを組み合わせることで、製剤・部材化し、市場に提供していこうとしています。これまで当社がこれら界面科学を展開してきたのは主に繊維産業の分野でしたが、今後アプローチしていくのは環境・エネルギー産業、エレクトロニクス産業などの分野です。例えばウレタン技術を活用して柔らかく曲げられるけれども傷が付きにくいタッチパネルやディスプレイ、高分子合成技術を用いたナノレベルのエッチングによるLEDの輝度向上技術など、様々な分野で新たな可能性が生まれようとしています。

トピック～ ナノ粒子への挑戦

現在いくつかのプロジェクトが進行していますが、その中のひとつに「ナノ粒子」による新

規事業展開があります。

ナノ粒子とは直径がナノメートル(ナノ=百万分の1mm)の超微粒子をいいます。金・銀・銅などの金属ナノ粒子や半導体、窒化物、炭化物などの無機ナノ粒子を当社の界面科学と融合させることで、新たな工業材料や加工剤として活用していくというものです。物質のサイズがナノ領域になると、従来とは異なった物理的・化学的特性を示すようになり、さらには比表面積が著しく大きくなる特徴があります。ナノ粒子の実用化には、溶液や樹脂の中に均一に分散するための「界面制御」技術が重要なポイントであり、ここで当社の界面科学が重要な役割を果たすことになります。

ニッチを集積し 「もうひとつの日華」へ

いま芽生えつつある市場は、一つひとつを見れば小さなものです。しかし界面科学のノウハウによって当社が優位性を発揮できる、あるいはこれから新たに創造していけるマーケットです。これらニッチマーケットを確実に抑えながら、着実な成長を目指していきます。



環境への配慮とコストダウンで ニッチトップに。高い技術を 全グループへ波及。

本年6月から新たに日華化学グループの一員に加わった、大智化学産業。半導体や水晶振動子の加工工程用の水溶液を製造・販売し、国内ナンバーワンシェアを誇る「ニッチトップ」企業です。そんな大智化学産業をご紹介します。



大智化学産業株式会社
取締役 営業部長 日向野 宏
技術部開発課 係長 千葉山武工場 工場長代行 坂井田 久恵
高橋 隆弘

他社に先駆け水系薬剤を水系へ

—会社の主力製品を教えてください。

主力は、半導体や水晶振動子などの加工で使われる、「クーラント剤」と呼ばれる水溶液です。切断や研磨の摩擦を抑えられ、電子部品加工には欠かせない「緑の下の力持ち」的な役割を果たしています。昔は油系のクーラント剤が主流でしたが、引火の可能性があるなど問題点も多々ありました。そんな中、約15年前、当社が先駆けて水系製品を開発・製造。安全で環境にもやさしい製品とあって、瞬間に市場を席巻。現在、全工程使用特殊化学品分野で、水晶振動子向けが約80%、半導体向けが約60%の国内シェアを誇っています。

また化粧品分野でも製品を手がけ、コンパクトのファンデーション容器向けの「レフィル接着剤」を、約45年前に独自開発。半永久的に乾かないため交換が容易で、現在でも市場シェア約90%を占めており、営業をかけなくても引き合い・注文が来る、大変利益率がよい製品です。

これらを合わせて、およそ150品目のオリジナル製品を年間4,500tほど製造・販売。大手には真似できない多品種を手がけ、中には生産量が少ない製品もありますが、必ず売れる、市場ニーズが高い製品群を世に送り出しています。また近年は太陽光パネルやLEDの製造工程用薬剤への進出にも取り組んでいます。

小さな市場でのシェア獲得をテーマに、「ニッチトップ」を誇れるまでに成長できたと自負しています。

製品をリサイクル、雨水を原料に

—製品の特徴は？

環境対応です。水系製品を代表に、環境



クーラント剤のリサイクルでは約55%の原料を取り出すことに成功。環境負荷を低減している

にやさしい製品を独自開発してきました。またクーラント剤は使用後のものを納入先から回収し、再処理を経て原料を取り出します。その後、砥粒*（とりゅう）は金属関連の製品として販売、溶液は精製され再び原料として再利用されます。客先で加えられた砥粒も含めて年間約4,500tを再処理しており、コスト削減にもつながっています。こういったクーラント剤を再利用する試みは他社でも行っていますが、ほとんどがリサイクル専門業者を利用しています。製造から回収・再処理、再生産まで一貫したシステムを構築できているのは当社だけです。

*砥粒…研削、研磨に使用する高硬度の粒状あるいは粉末状の物質の総称。

もう一つの特徴が、原料となる水は雨水を利用していること。平成10年に完成した千葉山武工場は、10年分の周辺地域の降水量を調べた上で建築を決めました。雨水を効率的に貯められるよう設計し、これを蒸留水レベルまで濾過・処理して原料に活用しています。コスト削減になる上、水道水と違いマグネシウムなどの金属成分が含まれず、処理も容易です。

また太陽光発電にもいち早く乗り出し、山武工場のほとんどの屋根に太陽光パネルを設置。工場で使用する電力量全体の5～10%にあたる287.5kWを発電できています。

さらに、品質検査・管理もハイレベルだと自負しています。水晶振動子や半導体の原料は、とても高価で失敗が許されません。そのため徹底した品質管理システムを構築し、顧客から高いご評価をいただいています。

共同開発で直販体制を築く

—製品の販売はどのように？

ほぼすべて直販です。水晶振動子・半導体ともに大手メーカーとお付き合いがありますが、商社を介さず自分たちで営業することで、利益率も向上し、顧客へのレスポンスもいち早く対応できます。しかも共同開発なので、製品化=即専売状態にできるのです。また薬剤の調査といった重要情報の外部流出を防げるのもメリットです。お客様と膝を突き合わせて開発にあたるというスタイルは、日華化学とも共通していますね。

—日華化学グループの一員に加わりました。

はい、今までは情報流出を恐れるあまり海外展開にはあまり積極的ではありませんでした。日華化学グループは台湾や韓国、中国など、近年IT分野の成長が著しい国々に拠点を構え、歴史や高い技術力を持っています。これら拠点と連携を深め、当社の技術も活用してほしいですね。

今後は、本社をはじめ各拠点との技術交流も積極的に図り、お互いのいい部分を吸収し合いたいです。



生産を一手に引き受ける千葉山武工場。地下に雨水を貯蔵する約5,800tのタンクを備える

大智化学産業株式会社

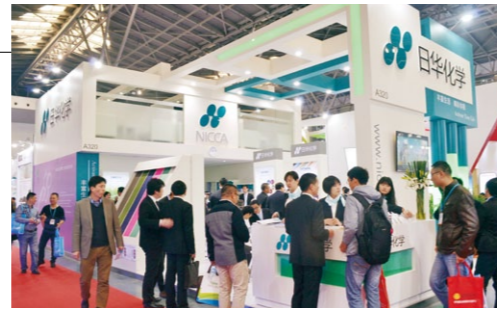
所在地 TEL 本社：東京都墨田区八広2-17-10
TEL：03-3613-3111(代)
千葉山武工場：千葉県山武市木原1454番1号
TEL：0475-80-7071(代)

人員 70名(2015年6月現在)
設立 昭和41年(1966)
出資比率 100%(日華化学株式会社)
売上 約16億円(2015年3月期)

China Interdye 2015に出展

4月、上海で開催された第15回"China Interdye" に、世界各国の当社のグループ会社と共同で出展しました。

世界50カ国以上の国や地域から5万人以上が参加し、出展企業は620社を数えました。当社ブースでは、環境を意識した非フッ素撥水剤、水性ウレタン樹脂、省エネ製品など多数の新製品を紹介。今後も、“快適・安全・環境”をテーマにした製品開発を進めていきます。



ソルベイ日華応用開発研究所が移転

5月、各特殊化学品の研究・販売を行っているソルベイ日華株式会社は、応用開発研究所を日華化学の総合研究所から神奈川県川崎市に移転しました。羽田空港からのアクセスが良く、日本と世界の窓口として最適な立地です。技術・イノベーションの最先端にある日本の顧客に対応し、世界にあるソルベイの各研究所と連携を取り、新しいソリューションを提供してまいります。



江守エンジニアリングの株式取得

5月、当社は、江守グループホールディングス株式会社より江守エンジニアリング株式会社の株式を取得し子会社化しました。同社は化学品メーカーの設計等において高い技術を有しており、日華化学グループの生産技術力により、さらなるシナジー効果を見込んでおります。



新商品情報

フローディアから3ライン新登場

大人の艶髪を追求するヘアケアブランド「FLOWDIA(フローディア)」から新シリーズを4月に発売しました。ラインナップは、大人のうねり髪にアプローチするヘアケアライン「FLOWDIA Silky Calm(フローディア シルキーカーム)」、触れなくなる艶髪、艶肌へ導くヘア&ボディケアライン「FLOWDIA Balancing Line(フローディア バランシングライン)」、軽やかな艶髪スタイルを表現するスタイリングライン「FLOWDIA Refined Line(フローディア リファインドライン)」になります。大人の女性にこそ求められる「艶髪」へ導きます。



ヘアケアシリーズ

「ヘアシーズンズ アロマシロップス サマーバージョン」発売

香りで旅するヘアケアシリーズ「ヘアシーズンズ アロマシロップス」から夏季限定の「ヘアシーズンズ アロマシロップス サマーバージョン」を3月に発売。南の島のリゾート「パラオ」と極夜が訪れる北極圏の国「アイスランド」をイメージした2つの香りを新たに厳選。特徴成分の「テオシロップ*1」と「ククイナツオイル*2」がうるおいを与え、髪や肌を夏ストレスから解放します。

*1 加水分解テカリリュウゼツ茎エキス(保湿成分) *2 ククイナツ油(エモリエント成分)

欧米で進む先端材料の技術革新
ドイツの「炭素繊維複合材料
イノベーション・コンソーシアム」に参入。

日華化学でいま、大きな可能性を秘めたプロジェクトが動き始めています。炭素繊維などによる「複合材料」の生産性向上技術を開発する“アゲハプロジェクト”です。Airbus(エアバス)、VW(フォルクスワーゲン)、DLR(ドイツ航空宇宙センター)などそうそうたるメンバーが加盟するドイツの研究開発クラスター「CFK Valley Stade」に、このプロジェクトが高く評価され、ドイツとのオープン・イノベーションがスタートしました。

「第4の産業革命」と
CFKバレー

今ドイツの産業界を中心に大きなうねりが巻き起こっています。「第4の産業革命」と呼ばれる技術革新です。「工業のデジタル化」とともに取り組まれているのが、鉄やアルミに代わる新たな素材の開発。その中心となっているのがシュターデ市にある「CFKバレー」です。CFKとはドイツ語で「炭素繊維複合材料」を意味し、バレーには世界各国から航空機メーカー、自動車メーカーなど100を超える企業や研究機関が参集し、分野横断型の共同研究が繰り返されています。メンバーはAirbusやVWなどそうそうたる企業や研究機関など。組織内外の知恵と技術を組み合わせながら新しい価値を創造する“オープン・イノベーション”と呼ばれる型式で、未来の複合材料の開発が進められています。



新規育成事業部門 グループ研究センター 領域開拓研究室

プロジェクトリーダー(開発)

番戸 博友

プロジェクトメンバー

石田 顕嗣

プロジェクトメンバー

上田 香奈

新たな樹脂と
接着制御剤を開発

炭素繊維などを樹脂で固めた複合材料は、旅客機や自動車などにも取り入れられ、その需要は確実に伸びつつあります。しかしネックになっているのは「量産技術」。現在主流となっている「熱硬化樹脂」では硬化に10時間もの時間が必要で、数秒間で鉄板をプレス加工する自動車産業などでは、生産効率の観点から全く間に合わない材料とされてきました。しかし極細の繊維を自在に扱い、効率良く樹脂を含浸させ短時間で固める—そんな技術が確立されれば、複合材料は爆発的に普及していく可能性を秘めています。



日華化学は、炭素繊維メーカーである東レなどに続く3社目の日本企業としてCFKバレーに参加。「炭素繊維のサイジング技術(炭素繊維の収束性と接着性を高める技術)」などを世界のメンバーたちにアピール、高い関心を集めました。

2017年には
事業化ステージへ

CFKバレーで発表されたこの“アゲハプロジェクト”の成果は各方面から注目を集め、アーヘン工科大学(独)やオークリッジ国立研究所(米)、ドイツ航空宇宙センターとの間で共同研究がスタートすることになりました。

日華化学が開発した電子ビーム迅速硬化樹脂とサイジング剤は上記研究機関に提供され、その特性評価を経て次のステップへと進みます。2017年までには事業化ステージへと移行することを目指しています。「複合材料」という新たな事業領域を創出するアゲハプロジェクトは、確実にその一歩を踏み出しました。

※蝶の翅のように軽量で強靱な構造材で空高く飛ぶことを目指すところから「アゲハプロジェクト」と命名されました。



連結財務諸表

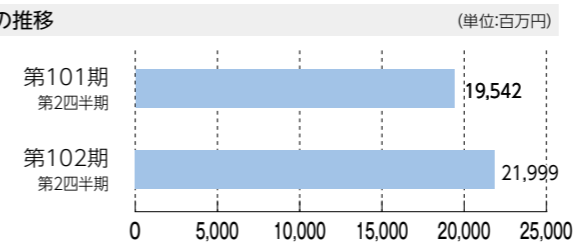
連結貸借対照表

科目	当第2四半期 (2015年6月30日現在)	前期 (2014年12月31日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産	25,385	23,050	2,334
現金及び預金	7,273	5,908	
受取手形及び売掛金	9,518	9,244	
商品及び製品	3,178	2,696	
仕掛品	854	821	
原材料及び貯蔵品	3,063	3,189	
その他	1,631	1,297	
貸倒引当金	△135	△105	
固定資産	22,135	19,005	3,130
有形固定資産	18,379	15,576	2,802
建物及び構築物(純額)	8,077	7,073	
機械装置及び運搬具(純額)	2,744	2,511	
土地	6,574	5,342	
その他(純額)	982	648	
無形固定資産	1,037	1,006	30
投資その他の資産	2,718	2,422	296
資産合計	47,520	42,056	5,464

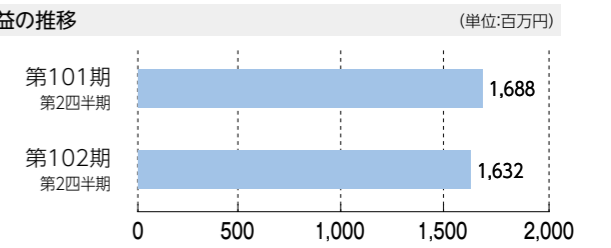
科目	当第2四半期 (2015年6月30日現在)	前期 (2014年12月31日現在)	増減
(負債の部)			
流動負債	18,785	13,787	4,997
支払手形及び買掛金	3,885	3,993	
短期借入金	11,488	6,811	
未払法人税等	405	216	
賞与引当金	313	478	
その他	2,692	2,288	
固定負債	7,279	6,324	955
社債	678	0	
長期借入金	3,195	3,069	
退職給付に係る負債	2,574	2,429	
その他	831	825	
負債合計	26,065	20,111	5,953
(純資産の部)			
株主資本	16,572	17,189	△617
その他の包括利益累計額合計	2,096	1,819	276
少数株主持分	2,786	2,934	△147
純資産合計	21,455	21,944	△488
負債純資産合計	47,520	42,056	5,464

●財務指標(連結)

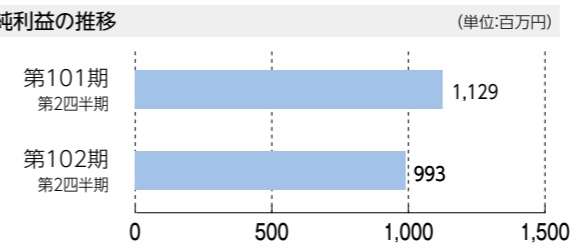
売上高の推移



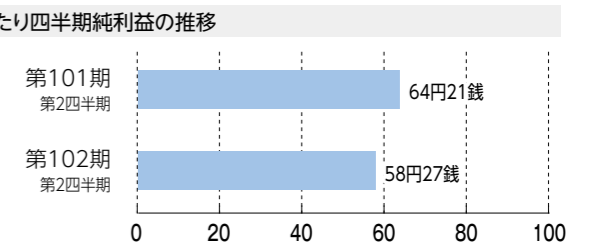
経常利益の推移



四半期純利益の推移



一株あたり四半期純利益の推移



連結損益計算書

科目	当第2四半期 (2015年1月1日～2015年6月30日)	前第2四半期 (2014年1月1日～2014年6月30日)	増減
売上高	21,999	19,542	2,457
売上原価	14,026	12,409	1,616
売上総利益	7,973	7,132	841
販管費及び一般管理費	6,483	5,436	1,047
営業利益	1,489	1,696	△206
営業外収益合計	269	210	59
営業外費用合計	127	218	△91
経常利益	1,632	1,688	△55
特別利益合計	131	160	△29
特別損失合計	18	11	6
税金等調整前四半期純利益	1,745	1,837	△91
法人税等	612	584	28
少数株主損益調整前四半期純利益	1,133	1,253	△119
少数株主利益	140	123	16
四半期純利益	993	1,129	△136

売上高(連結)

化学品事業において台湾および韓国の撥水剤の販売が好調に推移しました。化粧品事業においてデミ コスメティクスの拡販や新ブランドの積極的な事業展開を進めました。その結果、売上高は前年同期比12.6%増の219億9千9百万円となりました。

経常利益(連結)

経営基盤の強化を目的とした人事制度の移行に伴う一時経費の発生や将来の基盤技術確立のためのノウハウ獲得などを行ったことにより経常利益は3.3%減の16億3千2百万円となりました。

四半期純利益(連結)

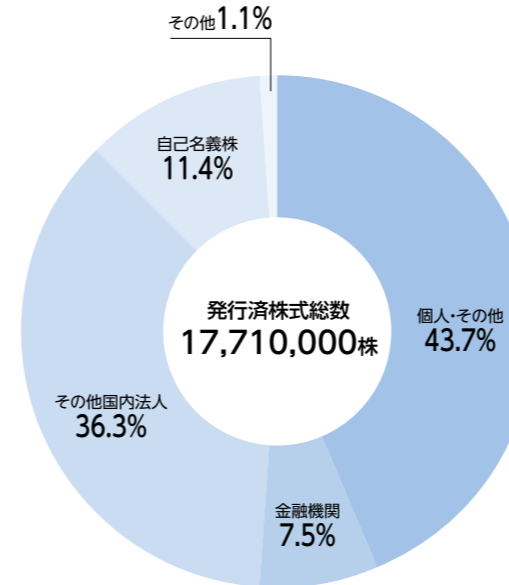
前年同期に比べ特別利益が減少したことや法人税等が増加したことにより、四半期純利益は12.1%減の9億9千3百万円となりました。

連結キャッシュフロー計算書(要旨)

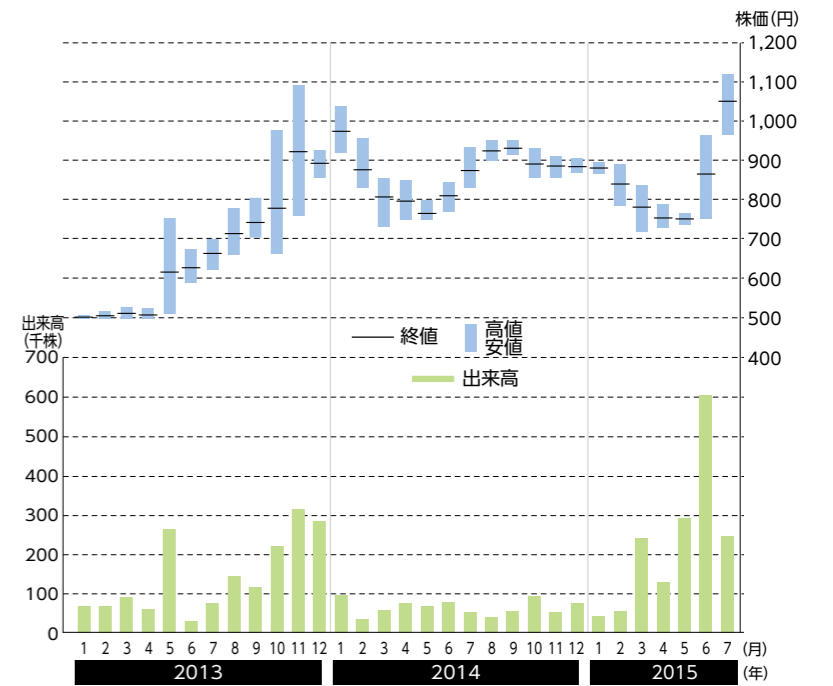
区分	当第2四半期 (2015年1月1日～2015年6月30日)	前第2四半期 (2014年1月1日～2014年6月30日)	増減
営業活動によるキャッシュフロー	1,983	2,361	△378
投資活動によるキャッシュフロー	△1,175	△715	△460
財務活動によるキャッシュフロー	503	△981	1,484
現金及び現金同等物の期末残高	7,170	5,584	1,586

株式の状況(2015年6月30日現在)

所有者別分布状況



株価の推移



連結対象会社

山田製薬株式会社	日華化学研究(上海)有限公司	ニッカ KOREA CO., LTD.	台湾日華化学工業股份有限公司
コスメラボ株式会社	DEMI (BEIJING) INTERNATIONAL	ニッカ U.S.A., INC.	STC ニッカ CO., LTD.
イーラル株式会社	TRADING CO.,LTD.	PT.インドネシアニッカケミカルズ	広州日華化学有限公司
大智化学産業株式会社	香港日華化学有限公司	ニッカ VIETNAM CO., LTD.	
江守エンジニアリング株式会社	DEMI KOREA CO., LTD.	浙江日華化学有限公司	

持分法適用会社

ソルベイ日華株式会社
